

大正七年五月十五日發行

婦人子ども

第十八卷

第五號

フ  
レ  
ー  
ベ  
ル  
會

婦人と子ども

第十八卷  
第五號

目次

園丁雜感	山邊知之
關西保育界の視察(承前)	倉橋惣三
幼稚園は如何なる處か	つや子
彩色遊びに就て	東京女高師附屬幼稚園
在園期間に於ける幼兒身體の發育率	東京女子高等師範學校附屬幼稚園研究部
幼稚園の自由	中川優
保姆の務め	市島貞三
小學校に現れた幼稚園の成績	紹介子
新しい試み	
ビヨン太郎	

# の一本目 年幼本白

本誌は、三歳から拾歳までの子供の爲め美しい繪と、面白い噺とを、教育的に組み合せて他に比類なき繪雑誌です。殊に毎號教育的な手技附録を添へます。

本誌は 玩具とお噺しとの興味及び教育的價値を兼ねあはせたるもの、子供には何よりも喜ばれ、何よりもよき友達となる。

## 定價

壹冊拾二錢    □半年 郵税共七拾五錢  
郵税壹錢    □壹年 同壹圓四拾四錢

御大典記念畫報 婦人畫報  
皇族畫報 少年畫報  
日本幼年

發行所

東京橋鍛冶橋外  
振替東京四九〇〇

東京社

# 顧問 高平 三郎 先生

## モドコ

### 本誌の四大特色

子供繪雑誌は玩具であると同時に教科書であります。お子様方がコドモを御覧になつてゐる間に物事を覚えお行儀がよくなること不思議な位です。

まじめで教育的なこと  
繪が叮嚀で美麗なこと  
お話が易しく面白いこと  
片假名のみで讀易いこと

□ 定價 一冊 十二錢  
□ 郵 税 五 厘  
□ 六冊郵税共六十九錢  
□ 十二冊 郵税共一圓三十一錢  
□ 總て前金の事  
合 本 定 價  
各集郵税共五十錢

東京市小石川區  
林町五十七

**コドモ社**

電話番町六一八  
振替東京二七九六三

合本出來

大正三年七月號より  
同 第三集  
大正四年一月號より  
同 第四集  
大正四年七月號より  
同 第五集  
大正五年一月號より  
同 第六集

感 雜 丁 園

5

今は如何なる時か。聖代泰平の治に浴して、花に若葉に又しても忘れようとするけれども、今は之れ、言ふまでもなく世界の大亂の最中である。而して、世界の大戦争は、たゞに戦線に於て砲火を以てのみ行はれて居るのではない、實に各國民の精神的緊張を以て行はれて居るのである。國民の精神的緊張は國民各個の職務上の精神的緊張に他ならぬ。我が日本も、今日砲火を以ての戦闘にこそ参加して居ないが、此の精神的緊張の戦ひに於ては、一日も休止することの出来ない戦ひをして居るのである。吾等幼児教育者も亦、此の戦ひの中心者たるはいふまでもない。

國家の意識は其の將來といふことを離れて意識せらるゝものではない。國家の存在は其の永遠の連續の意味に他ならぬ。しかも、所謂天下多事の時に際しては、其の現在の應對に之れ忙しくして、往々にして思ひを明日に置くの餘裕を缺くことなきを保し得ない。家忙しくして子弟の教養を忘れ、國忙しくして兒童の教育を忘るゝことあるは、又しても陥り易き現在の子の弊である。たゞ眞に大憂あるものゝみ此の弊に墮ちない。のみならず寧ろ却つて、今日の急の爲に明日に備へ、現在の難の故に將來を思ふ。家忙しき時、殊に子弟の教養に意を用ひ、國忙しき時、殊に兒童の教育に力を注ぐ。皆此の大憂の士の最も眞實なる心懸けである。

あの可愛いゝ頬、あの房々しい垂髪、遊戲、玩具、童話、唱歌、幼稚園の世界は、何時とも愉悅の世界、和樂の天地である。吾等は出来るだけ美しく歌ひ、出来るだけ高く笑ひ、彼等の遊びの中に、出来るだけ我れを忘れなければならぬ。それが吾等の貴重なる職務である。しかも思へば吾等も亦今や、國家將來の安危の爲に、精神的緊張の戦ひに參して居る戦士である。殊に其の戦ひの最も重要な方面を擔當して居るものである。而して、此時必要なる精神的緊張とは吾等の職務上の精神的緊張に他ならぬ。

嗚呼、今や國家大切の時なり。國家の爲に、實に國家の爲に、子等と共に美しく歌ひ、高く笑ひ、樂しく我を忘れて遊ばんかな。(倉橋生)

# 關西保育界の視察（承前）

城東幼稚園長 山 邊 知 之

岡山の次ぎには大阪へ参りました。まづ東區の安土町の愛珠幼稚園を參觀しました。愛珠幼稚園のあるところは東京で申せば日本橋と言つたやうな場所、目貫きの土地であります。

私が愛珠幼稚園で驚いたことは遊戯室の大きいこととあります。遊戯室だけの總建坪が六十三坪とか聞き及びました。天井も高く、床から二十尺もあるのでありますから、廣々として、ゆつたりした感じを與へます。私が愛珠へ行つた日は丁度お雛様の飾つてある日でありました。幼兒の席は半圓形に拵へられ、各自の幼兒の前に本膳が据ゑてありました。而して四人の幼兒が甲斐々々しくお赤飯のお給仕をして居りました。その時の可愛らしい光景は今でもあの邊り見るやうな氣が致し

ます。こんな風に雛祭の賑かに、睦じさうに行はれて居るのを見て、私は誠にいゝ心持でありました。愛珠では此の愉快な雛祭りを見せていたゞきましたので、平生行はれる所の保育の實際を見ることは出来ませんでした。とにかく、愛珠幼稚園に於ては私は非常に愉快でありました。その日の私の氣分にも依つたのでありませうが、私は愛珠幼稚園に於ける幾分時かを暖かい、美しい、ふうわりとした心持を懷いて過したのであります。何だかもう一度お訪ねしてみたいやうな氣がします。これは確かに愛珠幼稚園の空氣が暖かく、美しくふうわりとして居るからに違ひないと私は今になつて思つて居るのであります。

愛珠幼稚園の稻葉先生は非常に徳望の高い方で

ありまして、大阪市中の保姆の中で第一の待遇を受けて居られます、何でも小學校長に匹敵する位の額を得て居られるとか聞き及びました。而して愛珠幼稚園といふ一つの園の爲めに七千餘圓の經常費が計上されて居ります。而して現在の園舎は明治三十七年に八萬六千圓を費して作られたもので總檜木造りであります。私は斯くまで裕かに保育のために計上されてゐる愛珠幼稚園を羨ますには居られませんでした。

次ぎに參りましたのは江戸堀幼稚園であります江戸堀といつたら皆さんは直ぐに膳さんを思ひ出されるであります、それ程に江戸堀幼稚園の膳先生は有名な方であります。江戸堀幼稚園は愛珠幼稚園とは打つて變つたきたなさであります。小學校の附屬になつて居りまして、薄汚い建物でありますから、一寸した外觀だけでは江戸堀の眞價は味はれません。

江戸堀で嬉しかつたのは、人の態度であります、

研究の有様であります。殊に膳先生に御面會して私の心持は一層爽かになりました。この幼稚園には實によく自然が取り入れてありました。出来るだけ多くの自然物が應用されて居りました。尙額の繪も飾も植物等を以て作られたものでありました。膳先生は繪がお上手ですから、何處の黑板にも繪が描いてあります。梅の繪、福壽草の繪、どの黑板にもスキがありません。私は

「黑板をよくおつかひですね」

と申しますと、膳先生は

「七年前までは、私は畫といふと手が動きませんでした。しかし黑板を十分に利用するためには、何うしても自分から繪が描けなくては仕方がないと思ひましたので、繪のお稽古を始めたのであります。それでこの頃では、何うやら、皆自分で描くやうになりました」

私はこの一事を以てしても膳先生の幼兒保育に御熱心であることを十分に知ることが出来ると思

ひます。膳先生は自然を應用していろ／＼なものをお作りになることが非常にお上手であります。

貝やどんぐりや鑛物破片等を合せて巧みにお雛様や何かを拵へられるのであります。

斯ういふ風に膳先生が先へ立つて働かれるために江戸堀幼稚園の成績は實によく擧るのであります。膳先生は口の人ではなく、實行の人であるといふことを強く感じさせられました。

江戸堀幼稚園では糸かゝりを大部やつて居りました。大分面白くかゝつたのがありました。糸かゝりは東京の幼稚園ではもう止めて了つた園もあるやうですが、工夫の仕方によつてはいくらでも應用の利くものでありますから、もつと盛んに行はれるやうにしたいと思ひます。

江戸堀幼稚園は園舎こそ汚けれ、活動力に充ち満ちた努力の園であります。私は最後に遊戲室に案内されました、こゝでも矢張土川先生の律動的遊戲を行つて居りました。ピアノを彈奏してゐた

方は土川先生がおいでになつた時彈奏された方ださうで、土川先生の呼吸をかなり飲み込んで居るゝやうに見受けました。

最後にこの園で驚かされたことは「松毬拾ひ」でありました。そのお話をするには「松毬拾ひ」といふ遊戲を説明しなければなりません。先づ二つの籠の中に松毬が入つてゐます。これを零してその邊一帶にまきちらします、幼兒は手早くこれを拾つて籠の中に入れます。「松毬拾ひ」はこれで終りますが、これに附屬した遊びが却々面白いのであります。拾ひ集めた松毬は二つの籠の中に入れます。而して二つの籠の中にある松毬を目分量ではば同等にして置きます、而してどちらが重いかといふことを幼兒各自に試みさせます。幼兒は籠を提げてみて、左の籠が重いと思つたものは左側に整列し、右の籠が重いと思つたものは右側に整列します。私の拜見しました時には左の籠の方を重しとするものが大勢で、右を重しとするも



のは四五人しかありませんでした。私にも試してみらやうにとのお話でしたから、やつてみましたが、私にはどちらが重いか薩張り分りません、兩方とも同じやうな重さに感ぜられました。そこで私は何でも賛成者の多い方がいゝのに違ひないと思つて左の側に立つて濟してゐました。あとで秤で量つてみましたら、果して左の籠の方がホンの少し重くありました。そこで左の籠から松毬を一つ除いたら秤は水平になりました。松毬一つの重さはいくらありませう、幼兒はこの微妙な輕重の差を辨別することが出來たのであります、私はひそかに舌を捲いたのであります。またこの遊びは意志の鍛練の爲めに非常によいと思ひます。自分の信する所に従つて、左側へ立つ大勢の幼兒を物ともせず、斷乎として右側へ立つた幼兒は實に頼もしいと思ひます。

それから次ぎに見せていたゞいた遊戲は午年だからといふの木煉瓦でお馬をつくる遊戲であ

りました。先づ男兒と女兒とが一組づゝになつてぐゝりと輪を作つて居ります。「始め」の合圖と共に女兒はかけて行つて、近くに積んである木の煉瓦を運んで來ます、男兒は女兒から受取つた木の煉瓦を以て速かに馬を組み立てるのであります。批評めいたことは一切抜きにして、この遊びも協同一致の精神を養成するには至極の思ひ附であると思ひます。

次ぎには御津幼稚園へ參りました。この園にも小山先生といふ立派な園長さんがいらつしやいます。私が參つた時には幼兒は厚紙の細工を熱心によつて居りました。こゝでは古葉書を利用していろ／＼な立體、例へば蓄音機とか家とかいふやうなものを作らせるのです、材料だけ渡して何でも幼兒の思ふ通りのものを拵へさせるといふやうな遣り方だつたと思ひます。御津幼稚園には特別の施設がありましたので、私の旅行の目的の爲めに詳しく調べさせて頂きました。この園の現在の設

計は小山先生より三代前の園長をして居られた御津小學校長の手によつてなされたのださうであります。この園が建築落成して開園式の行はれた頃の模様、一番始めの園長さんが今も尙一年に兩三度は必ず園を訪れなさつて、庭へ椅子を持ち出し園舎の模様、さては幼兒の嬉戲する様を如何にも楽しさうに、而して又感に堪へぬと言つたやうな面持で眺め入つて居られるといふことをうかがつて、私は實に何とも言へない氣が致しました。この愛に充ちた園長さんの記念のために現在の園舎は朽ちるまでは現在のまゝで保存されることを他人の私すら只管望まざるを得ないのであります。

御津幼稚園を參觀した後に私は汎愛幼稚園へ行きました。こゝは又園舎も結構に出来て居ります。器具器械がよく揃つて居ります、遊園の設備は一層よく、池があり、噴水があり、瀧があります。而して鶴こづつが悠々徘徊して居ります。この園ではすべての飼ひ物にやる餌の代だけが一ヶ月十圓を要

すとのお話しでした、私の園では一ヶ年の備品費が百圓といふことになつて居ります。不躰かも知れませんが私は報告書へこのことをチャンと書いて置きました。大阪が豊かすぎるのかも知れませんが、東京は何と言つても是等の點は貧弱と言はざるを得ません。大阪には市立幼稚園が三十二あつて、その幼兒數は六千五百人であり、我東京市は市立幼稚園が十六で幼兒數は僅かに一千九百人に過ぎません、此の幼稚園の豫算は年額十一萬餘圓であります。是等の數字に鑑みても二百萬餘の人口を包容する東京は百六七十萬の人口を包容する大阪に比較して保育上發達の餘地を多分に殘して居ると言はなければならぬと思ひます。

(文責在記者)

# 幼稚園は如何なる處か

——愛兒を幼稚園に托さるゝ家庭の方々へ——

倉橋惣三述

## 一、幼稚園は幼稚園

幼稚園は如何なる處か、それは幼稚園といふ名が一番よく現して居る。幼稚園は幼い子供の庭と書いてある、その意味は小さい小供が楽しく遊ぶ庭といふ意味にとれぬこともないがこの名前が持つてゐる意味はもう少し深い意味であります。幼稚園といふ名は今から百五十年ばかり前にフーベルといふ人が始めてつけた名でありますがそれから後世界中何處の國でもこの通りの名前をつかつてゐます。幼稚園とか或は幼児教育所とか言うてもよさうであるが特に園といふ字を使つてゐるところに幼稚園の幼稚園たる所があるのであります。園即ち花園とは如何なる所かと考へてみますると種子を蒔いてそれが漸次に成長して延びて行くところであります。この種子が延びて一本の草花になるといふには園丁の限らない心づくしにも依ることであることは言ふまでもありませんが如何に園丁が特別な技倆を持つて居り、又甚麼に一生懸命働いたとしても命の無いものを育て、ゆくことは出来ないものであつて、即ち種子に自分で延びてゆく大きな力があり、その力が自然の土のうるほひや或ひは日光の暖かさに養はれて延びて來るのであります、つまり自分で成長してゆくことの出来る力を持つてゐる種子が延びてゆく場所であります。でこの種子は荒地に落ちても或は砂地に落ちてもその強い力で何とか延びて行けないこ

とはないかも知れません。たゞ子供が幼稚園に來るのはその柔かに耕された地に種子の蒔かれたと同じやうなものであつて、その子供の自分で持つてゐる力で最も幸に都合よく延びてゆける場所といふに外ならないのであります。幼稚園は小さい子供を集めて教育するところであるといふことの意味を何か外から子供にものを教へたり、或ひは子供を特別なものに育て上げたりするところだといふ意味に解しては非常な間違ひであります。幼稚園の教育は今日ではかなり研究せられまして、色々な方法も考へ出されて居ります。又幼稚園の先生は子供を育てる上に於て専門の勉強をした人でその力は非常にすぐれたものでありますけれども無理に子供を何かに拵へ上げて了はうとすることは決してしないのであります、即ち幼稚園は決して温室ではない、温室を拵へて種子を不自然に成長させたり、時ならぬ時に花を咲かせたりすることは出来ないことではありません、即ち未だ學校にゆかぬ子供に字を教へたり、いろ／＼の智慧をつけたり、いろ／＼の藝事を教へ込むことは出来ないことではありません、けれども温室で早く咲かせられたところの花は矢張早く枯れなければならぬと同じやうに、さういふ早い教育をされるといふことは決して子供の仕合せではない、又幼稚園は決して器用に巧者に枝振りを拵へ上げる植木屋でもない、幼稚園へ來る位の小さな子供は或ひは叱つたり或ひは抑へつけたりして、こちらで思ふ通りのものに拵へ上げようとすればこれも必ずしも出来ないことではない、しかし植木屋によつて無理に枝を曲げられたり、矯められたりしたところの植木が一寸見て面白い鉢物として人にめづらしがられて床の間に置かれたり、飾りものにされたりすることはあつても、それはもうそれきりであつて、それ以上延びもしなければ發達もとまつて了ふ。小さい子供も斯ういふ目に會ふことは決して幸ひとは言へないのである。それならば子供にとつて本當の幸ひとは何ういふことかと言へば出来るだけのび／＼と

した發達を遂げさして貰ふことである。幼稚園はこの幸福を子供に與へるところといふに外ならない。

そこで幼稚園では、出来るだけ子供の身體からだも子供の心も存分に延びさせることに、全力を盡すのであります。さて身體を十分に發達させるには何うしたらいいかと言へば、手を取り足を取つて引張り飴のやうに引き延ばすわけにもゆかない、それには子供に十分廣いところで運動させるより外はない、元來人間の身體、殊に子供の身體は凝つとしてゐることは嫌ひであつて、運動を求めてゐるのである。その求めてゐる運動をさせずに置けば、身體は次第に衰弱する、その求めてゐる運動を満足させてやれば、身體は發達するといふことになる、これは格別説明をするまでもない、分り切つた話であるが心を延ばすのも同じ理窟でたゞ無暗に押し出したり、引き延したりするわけにはゆかぬ、心は身體と同じやうに或ひは身體よりもつと以上に凝つとしてゐることが嫌ひであつて、常に動き、働き、活動を求めてゐるのである。この活動を抑へつけて働かせなければ心は次第にいぢけて了ふ、この活動に満足を與へていけば次から次へと活動して、いくらでも心が延びてゆくのである。幼稚園の骨を折つて居ることは何ういふ風にしてこの子供の身體殊に心の活動に満足を與へやうかといふことにあると言つてもいい。一口にいへば幼稚園は子供の心と身體の活動慾に正當な満足を與へて、それによつて子供を存分に延ばしてゆくところであると言つていいのである。

## 二、幼稚園と子供の遊び

幼稚園が前に述べたやうな意味のところであるとするならば、幼稚園に於て何よりも大事なものは子供の遊びといふことになる、子供の遊びといふものは昔から非常に誤解せられて如何にも下らないもの

つまらないもの、時にはわるいものとさへも考へられて居た、とりわけ子供を教育しやうといふやうな場合に於ては遊びは非常に邪魔ものゝやうに取扱はれる、「遊んでばかりゐて困ります」「遊んでばかりゐてはいけない」といふやうな言葉は始終聞かされるお小言である、ところがよく／＼考へてみると子供にとつて遊びほど幸福で又貴いものはない、子供の遊びはつまり子供の身體と心との旺んな活動が外に現れたものに外ならないものであつて、子供が遊ぶといふことは大袈裟に言へば、つまり子供が生きてゐるといふことと同じ意味であると言つてもいいのである、昔から子供の遊びをつまらないものだと思ふことがあつたのはつまりそれが何の役に立つかといふことを大人と同じやうな意味で見えてゆき過ぎたからであつて、一時間遊んだからこれだけ仕事が出来たとか、一日遊んだからこれだけ役に立つ用が出来たとはいふことでは勿論ない、けれどもその遊びの中で自然に子供が身體と心とを活動させて居るところから起る子供にとつての利益といふものは實に非常なものである、子供が遊んで困ると口癖のやうに言ふ人もその子供が遊ばなくなつたら何うでありませうか、傍<sup>はた</sup>から頼んだところで、又遊びの必要を言つて聞かしたところで、又叱つたところで、子供は本當に遊ぶものではない、もし子供が一切遊ばないといふことになつて了つたなら我々は何處で子供を活動させてゆくことが出来やうか、殊に子供の身體と心とを存分に活動させて行くといふことを大きな目的としてゐる幼稚園といふものにとつては子供の遊びは何よりも大事なものと云はなければならない、或人は塙の外から幼稚園をのぞいてみて「何だ遊ばしてばかり居るではないか」といふ人もあるかも知れない、又「幼稚園に通はしたのに何一つ役に立つやうなことは教へてくれないで毎日々々遊ばしてばかりゐる。」と言つて不足を述べる人があるかも知れない、斯ういふ人は幼稚園といふものを一番分つてゐてくれない人であつて、「流石は幼稚園で

ある、自家では遊ばない子供もこゝへ来ればあんなによく遊ぶ、よくもあゝやつて一生懸命遊ばれるものだ」と言つてもらつたならばこれは幼稚園にとつて大きな名譽である、即ち前に述べたことをもう一度他の言葉で言つてみれば幼稚園は子供を遊ばせるところだと言つて差支ないのである。ところでこの子供を遊ばせるといふことをもう少し進んで考へて見ると何うしても三つのことにならなければならぬ。その一つは子供の遊びたいといふ心を満足させてやるといふことである。子供はそれが健康な子供である限りは遊びたくて遊びたくて堪らない、而かも家庭に居つても又往來に出ても却々思ひ切り存分に遊ぶといふことは六ヶ敷いことが屢々ある、場所が少くて遊べないこともある、道具が無くて遊べないこともある、遊び方を知らないために遊べないこともある、相手がなくて遊べないこともある、幼稚園はこの不満足から子供を救つてやつて、場所も與へ、道具も與へ、相手も與へ、又遊び方も教へて、子供の遊びたさを出來るだけ満足させてやらうとするのである、ところが子供の中には十分に遊ぶ氣のない子供があることがある、又本當の自分の力の一部分しか出し得ないで居る子供がある、さういふ子供のためには誰かその子供の活動を上手に引き出してやるものがなければならぬ、一寸引き出して貰へばそれからそれへと活動の慾が起つて來てその子供の愉快も幸福もずん／＼と増してゆくのである、幼稚園が子供を遊ばせるといふ第二の役目はこの點にあるのであります。即ち幼稚園はたゞ遊びたい子供を遊ばしてやるといふばかりでなく、子供を益々遊びたいものに導いてやるのであります、ところでこの二つの意味で子供を遊ばせて居れば幼稚園の任務が濟むかといふにさうは言へない、子供の遊びは非常に大切なものであるけれども未だ經驗も考もすくない子供としてはその遊びが時としては間違つた方に行かないとも限らない、もしさういふことがあつた時にそれを正しい方へを導いてゆくといふことは

是非とも必要なことではなければならぬ、前から子供の遊びに正當な満足と云つてゐるのはつまりこのことであつて幼稚園が子供を遊ばせるといふことの内には言ふまでもなくこの意味も入つてゐるのである、けれども幼稚園の第一の役目は子供の遊びに満足と云へるといふことであつて、教育と六ヶ敷く考へてこの満足と云へることを忘れて了ふやうなことの無いやうに氣をつければならぬ。

### 三、幼稚園の先生

今まで幼稚園、幼稚園といふことである／＼考へて來ましたが、さてその幼稚園とは何を言ふのであらうか、あの建物が幼稚園でありませうか、あのお庭が幼稚園でありませうか、あの机が幼稚園でありませうか、あの玩具が幼稚園でありませうか、これらは皆幼稚園にとつて大事なものであるに相違ないのでありますが、斯ういふものがいくらあつても幼稚園といふものは成立しない。幼稚園の本體はさういふものを言ふのではないのであつて、子供を教育しやうといふその心が幼稚園の本體であります、その心はつまり言ひ換ればその心の持主即ち幼稚園の先生に外ならない、言ひ換れば幼稚園の中心は申すまでもなく先生である、さてその幼稚園の先生は如何なる人であるかと言へば立派な學者も居りませう、又澤山の經驗を積んだ熟練家も居りませう、しかしその學問もその熟練も幼稚園の先生としてはつまり如何にして子供の活動に満足と云へてやらうか、それを誘ひ出してやらうか、それを正しく導いてやらうかといふ心に歸して了ふのであります。そこでこの子供に對する三つの心持、殊に子供の活動を満足さしてやりたいといふ心持は幼稚園の目的であるといふことに考へて來ましたけれども更に翻つて考へ



てみればこれは何も幼稚園といふものだけが持つてゐる心持ではないのであつて、その子供を愛するものゝ中で一番子供を愛するものは誰かと言へばその子供の親であります、親は子供に對していろ／＼のことを考へますけれども何よりも先に立つものは出来るだけその子を満足させてやりたいといふことに外ならない、又いやしくも考のある親ならば正當に満足させてやりたいと考へないものはない、世に所謂親心といふのはつまりこのことに外ならないのであります。ところで幼稚園の先生が子供に對して持つてゐる心持もこの親心と同じものに外ならないとすれば幼稚園の目的が何だといふことは決して理窟や學問から拵へ上げられたものでなくて、子供を愛する自然の人情に基くものだといふことが分るのである。幼稚園の先生はつまりこの人情に満ち溢れて居る人であつて、この人情に基いた働きを子供のために毎日して居る方々である。先生といへば何かを教へてくれる人といふ風に狭く考へられるけれども幼稚園の先生は教へるといふことよりはもつともつと廣い意味又深い意味での先生である。又先生といへば何となく事改つた特別な人のやうに聞えることもあるが幼稚園の先生はそれよりもつと自然な意味に於ての子供の叔母さんであり、又姉さんである、この先生は満ち溢れるが如き愛心を以て何うかして子供に満足を與へてやりたいと思はるゝばかりでなく、その特別な研究や經驗によつて最も上手に子供を遊ばしてゆく術を知つてゐる、但しその術といふのは輕業師や手品師の術といふやうなものでは勿論なくて、その先生の情愛から出る自然のうるほひ又暖かさが丁度露や日光が草の種子を喜ばし延ばしてゆくやうに子供を喜ばし、又その活動を引き出してゆくのである。

#### 四、幼稚園のお友達

幼稚園の本體は幼稚園の先生であつて、その先生に依つて子供の活動が満足させられ又指導されて行くのであるといふことは幼稚園の如何なる處であるかといふことを知るに第一に考へなければならぬことではありますが、さてそれならば先生と子供とが居ればそれで幼稚園が出来るかと言へば決してさうではありません。若し先生と子供だけでいゝものならば、その先生をめいゝの家庭にお招きしてもいいわけであり、又その子を先生のお宅に託してもいいわけである。而かも幼稚園が幼稚園でなければならぬ大きなわけはその幼稚園に集るところのお友達といふことにある。一口にいへば子供は幼稚園に來て先生によつて遊ばせられ満足を與へられると共に、お友達によつて遊ばせられ又満足を與へられる、この場合に於ては先生から遊ばしていただくとは違つた趣きがある。友達同志に於ては誰が誰を遊ばせるといふこともなく相互ひのことになる。又誰が誰に満足を與へるといふことが決まらないで、所謂お互ひごつことといふことになる、このお互ひ、相互ひといふことが幼稚園の幼稚園としての特別な意味を作つて來るのであつて、そこに幼稚園でなければ出来ないところの大きな利益もあるのである。事實から言つても子供が幼稚園の年齢になればこの相互ひの友達といふものを欲しがつて來る、幼稚園は子供のこの自然の要求を充たしてやらなければならない、又教育といふことから言つても人間が年長者や自分より有力な者から保護され又之に従つて行くといふばかりでなく、同等同力の者がお互ひに交りもし助け合ひもし、時には適當に相争ふといふことも小さい時から經驗さして置かなければならないことである。幼稚園の大きな役目が矢張こゝにあるのである。但しこれも亦子供の求めるものに満足を與へてやるといふのに外ならないのであつて、たゞその満足をお互ひ同志から得させやうとするのである、ところで友達同志といふやうなことは何も必ずしも幼稚園でなくても得られるではないかといふ人がある

かも知れない、この點に於て幼稚園はその友達を選んでやるといふことゝ、その友達同志を友達同志として十分に又正當に交らすといふところに大きな働きをして居るのである。即ち幼稚園の先生は自から子供に満足を與へ又指導すると同時にこの友達同志といふものを上手に結びつけ、又監督して行つて、それで子供を満足させ又指導して行くといふ間接の働きに力を盡して居るのである。孫の可愛くて可愛くてならぬお婆さんなどが幼稚園に來られて、先生がチツとも自家の子供の手をひいてくれない又、やはやと自家の子供の相手をしてくれないといふので不腹に思はれるといふことがないでもないが幼稚園の先生から言へばそれは自分でもしたくてならぬこと、又さうしてばかりゐていゝのであるならば寧ろやさしいのであるが、なるべく自分を子供に直接に出さないやうにして、蔭から子供の友達同志を上手に操つて行くといふところに何層倍かの苦心をしてゐるのである、而してそれでこそ、そのお子さんは幼稚園に來た甲斐があるといふわけなのである。

## 五、幼稚園の一日

さて以上述べて來た意味に於て幼稚園の一日は何ういふ風に行はれて行くか、これは全く細かい實際の問題になり、又その日々によつていろ／＼と變つて行きますから、皆さんが屢々幼稚園を訪はれて直接に御覽になり又お考下さらないけません。幼稚園といふものは同じ子供の保育をする場所であつても、小學校とは大層その趣きを異にして居りして、小學校ならば一週間、一學期、一學年の仕事の順序、内容がしつかりと確定も出來、實際を離れて説明することも出來るのでありますが、子供の活動を本體とする處、又子供の遊びが主になつて行く處でありますから、幼稚園の一日を實際を離れて斯く

の如きものであるといふことは六ヶ敷いのであります、殊に幼稚園としての本質に十分氣をつけてゐればゐる程、そのすることが子供の一人々々を主として、又子供に出来るだけ、わざとらしい特別な心持をもたせまいと致しますから學校のやうに毎日何時に鐘を鳴らして幼稚園全體が揃つて何をしなければならぬといふやうなことを致しません。その爲めに幼稚園の一日をキチンと型にて説明することは到底出来ないであります。しかし幼稚園が遊びを主にすると言つてもたゞ子供と先生が不規則に打ち混つて一日中遊び暮らしてゐるといふばかりではありません、幼稚園は幼稚園としていろ／＼に研究せられた方法を用ひて子供に歌もうたはせませす、繪も描かせませす、紙や又粘土などを用ゐていろ／＼の製作もさせませす、而して是等のことがそれ／＼の年齢の子供に何ういふ關係を以て役に立つものであるかといふことをよく考へて所謂自由の遊びの中に適當に加へて行きます。但し之は學校の學課とは全くその性質を異にしたもので、子供に何かを教へるとか又は子供を何かに上手なものにするとかいふ目的で課せらるゝものではありません。言はゞ多少組織立つた遊びと言つてもいゝものであつて、矢張子供の活動を満足させ、又之を指導して行くといふことの外には出ないのであります。昔の幼稚園は是等のことを學校の課業のやうに考へ幼稚園の本質とは違つたやうな意味で斯ういふことをさせた場合もありましたが今日の幼稚園に於ては斯ういふとも何處までも子供の自然を基もとにして行つてゆくのであります。つまり子供は遊びたいと言つてもたゞいゝ／＼と騒いでゐるばかりで本當に満足するものではない、子供の心、殊に幼稚園に來る位の年齢の子供の心には自分の知つて居るものを歌になり繪になり形になり現はしたい、即ち作りたいといふ強い欲求を持つて居ります、これを最も子供に適した材料と方法とで満足さして行かうとするのであります。尙又子供は自分の心の中にあるところのものを自分で外に現はして行くこと

を喜ぶばかりでなく自分の心を持つて居るものを、つぎと、又力強く現はして貰ふといふことに非常な満足を感じるものであります、乃で幼稚園ではこの満足を與へる爲めに子供の喜ぶ繪を見せてやり音楽を聞かせてやり、殊にお話を聞かせてやるのであります。これも言ふまでもなく學校でして居ることとはその趣きが違つて、これによつて子供に新しい知識を増し與へて行かうといふことが必ずしも目的にはなつて居りません。繪の力、音楽の力、又巧みなお話の力によつて子供の心に満足を與へ、それによつて子供の心を楽しく延びさせて行かうとするにあります。又子供は年齢相應に實際の生活に興味を持つて居るものであります。言ひ換れば自分で出来る限りの用もしたい、仕事もしたいといふ欲求を持つて居ります。乃でこれを満足させるために草花の世話もさせます。鳥や家畜の飼育にも手傳はせます。相當な用事もさせます、但しこれもそれらの仕事に熟練させやうとか、又用事をさせて幼稚園の手助けをさせやうとかいふのではありません、それどころか、子供に是等の實際の仕事させることは便利どころか、何の位餘計世話のかゝることか分りません、しかしこれも又子供の自然に求むるところのものであり、又満足させて子供自身の爲に利益あることであるといふところからに外ありません。昔の幼稚園は斯ういふことにあまり意を用ひなかつたのでありますが、今日の幼稚園では次第に斯ういふことに重きを置くやうになつて來ました。

ところで是等のことを何ういふ風に子供にさせて行くかといふには一組の子供を一齊にさせることもありませう、又したい子供だけにさせるといふこともありませう、又部屋の中で決つた机の上でさせることもありませう、或ひは遊園の青天井の下、涼しい木蔭などでさせることもありませう、それらはずべてその時その場合によつて先生の適當なる處置に出づるのであります。全體幼稚園の教育はこちらか

ら計畫を決めて、その通りきち／＼と行つてゆくといふ性質のものではなくてすべての機會を捉へて行つてゆくといふものであります、熟練なる保母は何時ともなく又傍から見てはまるで不秩序のやうな中に一人々々の子供にとつて適切な教育をして行くのであります。

斯くして幼稚園の一日はその間に適當の休息も與へて子供の心を弛めたり引締めたりして行きながら子供に十分の活動の満足と與へて行くのであります。その活動の満足は大人の方から見れば教育といふものであります、子供自身の方から言へば唯々樂しきこと、愉快なることであります。幼稚園が子供を幸福にし、子供を喜ばすといふことは勿論子供の御機嫌をとるといふ意味ではありませんが何よりも心がけて居るところであります。而してこれは幼稚園だからするといふよりも愛する子供に對する人情の自然に外ならぬものではありますまいか、若しもその反對に子供が幼稚園の一日を終つて「あゝ今日は誠に有益であつた」といふやうなことを感じたならばそれは子供として奇妙なことであり、又幼稚園が強ひてさういふことを感じさせたとするならばそれは幼稚園の大きな失敗と言はなければなりません、つまり幼稚園の一日は教育の結果といふことから言へば勿論有益なるものでなければなりません、子供にとつては實に樂しいものでなければなりません。即ち幼稚園は如何なる處かといふことを子供に問うたならば「好きな處」「楽しい處」「面白い處」と答へるであります。

# 彩色遊びに就て

東京女子高等師範學校  
附屬幼稚園保母

つや子

刺戟の多い都會に生活する小供達は神經質でこせ／＼して居て落ちつきのないことが多く、ことに幼稚園の様な集團生活をする場所では、移り氣で散漫になり易く、周圍の力に支配されて次から次へと遊びが轉じて行き、一事に本眞劍になつて熱中するといふ場合が極めて少ない様に思はれます。勿論保母の細心の注意と深い知識によつて、小供の個人性を充分に尊重し、各自が熱中して遊べる様な境遇をつくり、周圍を整頓してやると云ふ事は保育の理想であり、いつもそのために努力すべきですが、また幼稚園は集團生活であると云ふ事をまぬかれない以上、組全體幾人かの小供が一所になつた時に、しつくりと落ちついた靜かなそして皆がたとひ五分でも十分でも無言で一つの

事に没頭する様な場合が願はしいと思ひます。それがたい「お行儀をよくする」と云ふ様な大人の生活から割り出した壓迫的な事でなしに。又生活の形式から小供の氣分を支配すると云ふ事のかはりに、内容に於て即ち小供の興味から導き出して、即ち空間的でなしに時間的に、ある間を小供が落ちついて一つの遊びに熱中し、それが集團的に行はれて、お互に他の靜肅を妨げないと云ふ様な状態が願はしいと思ひます。しかし何分ゴム絨の様な彈力にとんだ力のあふれた小供、一寸の刺激にもすぐに注意が散漫する小供達が一人二人でなしに二十人三十人と一所になつて居る時に、上述の様な願ひを全く不可能の事かと疑ひました、けれども忠實に小供の生活を觀察したら何か適當な方

法が考へ出せるかと長い間工夫して居りました。ある時小供が畫をかく時に自分のかいた臨畫リンガフのおぼつかない汽車や電車の屋根、さては人の着物を一生懸命に彩つて居るのを見ました。即ち小供が畫をかく時に一つの過程として通る塗抹テツマクの時期にあつたのでした。そこでこの期を利用して何か小供に興味あるものを彩色させ、小供自身が知らず識らずこれに没頭してしかもその彩色の間だけ無言で靜肅にする事が出来たならばどんなによい事であらうと考へました。

しかしどこまでも小供の興味中心でありたいので、その圖案を初めて斷片的に器物とか景色とかにして考へ、また小供にさせて見ました。塗抹の間の靜肅と熱中とは可能であるといふ事を見ました。しかし更にその方法を工夫して、小供達が最もよろこぶ毯の圖案をつくり、これを騰寫版テウシャバンにして與へて見ました。豫め彩色したものを各机に置きます。小供のその毯をぬると云ふ事に對する興

味、喜びは大したものです。しかも小供が熱中して無言の間に大勢が遊ぶと云ふ保姆の方の計畫はよく達せられるのを經驗しました。今最近去る二月二十二日に於ける有様を次に記して見ませう。

皆に一枚づゝ騰寫版にすつた毯の圖案と一揃の鉛筆とを與へます。各机には豫め保姆の彩色したものを置きます（これは小供の中で模倣したいものゝために）。初める前に最も樂な姿勢をとらせて「お口を縫ひませうね、もし中途で御用が出来たら音のしない様に立つてそつと先生の所へいらつしやい」と申しました。小供はもらつた圖案をながめて大よろこびです、いよゝゝ初めるともう本真劍になります。偶々隣りののをぞく小供も直きに自分のにもどつてぬつてゐます。熱中するので鼻液の出る小供も出来ます。すると自分でこつそりと足音をしのばせて立ち、室の一隅で靜かにかんでまた着席して塗りはじめます、うれしそうに、一生懸命に。十分位は何の音もしません。やがて



一兒がこつそりと先生の所へ持つて來て「先生出來ました」と耳もとでさゝやきます。「よく一生懸命になさいましたね」と小聲に云へばにこ／＼して「また今度させて下さい」と云ひ、しづかに戸外に出て行きます。かくてすべてが殆んど無言の内に音なく行はれ、これがわづか五六歳のあつまりで居る室かと思ふ様な靜肅さ、むしろ一種の壯嚴な氣分のたいよふ感がします。かくて思ひ／＼に自分がくたびれる迄熱中します。時々かはいらしいため息がきこえます。手首がくたびれるためか手をふつてゐるのもあります。あまり疲れさせてはと思つて、「少しお休みませう」と耳元でささやいても、紙にかはいゝ頭をうづめる様にして夢中になつて居る兒もあります。あんなりの集注にむしろ驚かされました。時間をはかつて見るとならば最短十分から最長一時間の間の無言がたもたれました。出來た兒はしづかにこつそりと戸外に出て行きます。時々戸外に出た小供が先生を呼

びに來ても、戸をそつとあけて見て、まだ仲間が塗つて居るのを見ますとまた音もなく戸をしめて出て行きます。中にはひつて來て物を云ふ小供も耳元でさゝやきます。かくて熱中し得る靜かな數十分がつゞきました。

さてその塗抹の結果はと見ますとまたよく小供の個性が表はれて居ります。そゝつかしい兒はやはりそゝつかしく、線書きに無頓着に鉛筆をはしらせてゐますし、落ちついた兒は手ぎれいに致します、獨創的の兒は彩色の工夫をこらして居りますし、模寫性の兒は机上の保姆の彩色したものの通りにします。疲れやすい兒は中途でやめてゐますし、根氣のつよい兒は丁寧にぬつてゐます、これら十人十色ですが各々その彩色の間は皆相當に熱中し没頭し靜かに無言に十分乃至以上を過したのでした。

そこで私のこの彩色をさせる目的は小供を本眞劍にならせる事でありますから出來上つたものゝ

上手下手を考の外に置きます。遅くまで一心にやつてゐる小供が必ずしも精巧に手ぎれいなものを作るとは限りません。一時間熱中してゐた菊代さんはまだ鉛筆が充分に使ひこなせず同じ所を幾度もこすつて居つた小供でした。けれども面白くして居る事であれば活動それ自身が貴いのですから、結果の如何は問題でないと思ひます。このやり方を小供が喜ぶといふ事は事實ですし、しかもある時間を落ちついて、靜肅に熱中する事が出来る事ですから一層考究すれば效が多からうと思ひます。

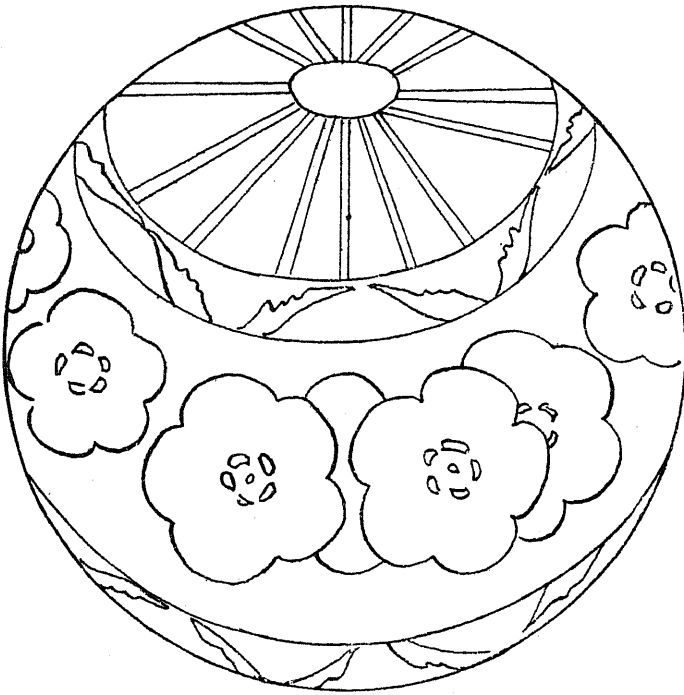
これを實行する上に考へて居りまするは先づ一ヶ月に一回位これを課し、その一回を充分に小供にもまた保母の有する目的にもかなふ様にしたいと思ひます、趨の圖案を四季十二ヶ月に應じて、例へば一月ならば松竹梅とか、二月梅、三月櫻、四月蝶など、美しい模様をあしらつて工夫したい、そして彩色したものはその趨の臨畫を剪つて手帳

にはりつけます。嘗つて試みた時、小供等にはりつけたものを眺めて非常なよろこびでした。またさせて下さい」とは彩色のあとに小供からかける言葉です。しかし深い意味をもつてする事です。からこれをさせる以上、亂用でなしに小供の興味の點からもまた保母がこれを課する目的からも徹底させたいと思ひます。この彩色のあとでは遊戲をさせるのが適當でありませう、小供相當にはりつめて夢中に致しますから、あとは充分に活潑に運動させた方がよいと思ひます。

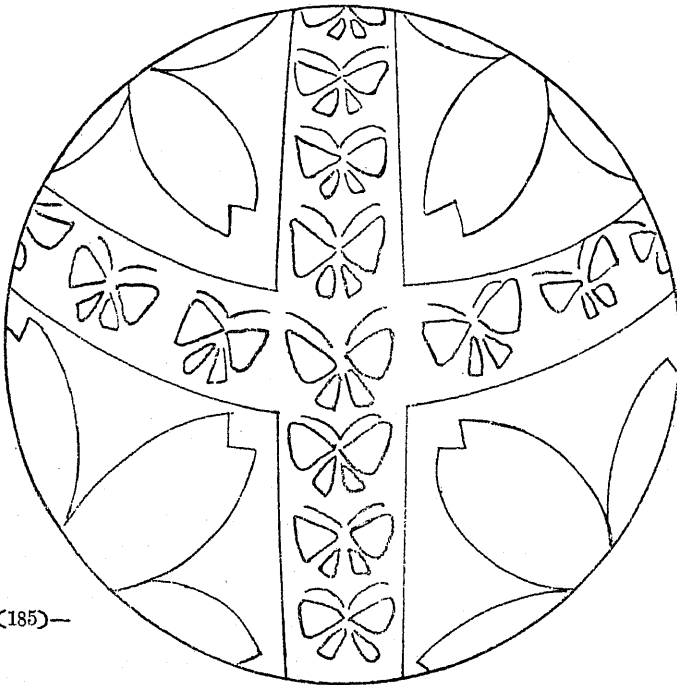
たい綿密な細心な注意をもつて慎重に行はなければ保育上弊害を伴ひ、又あやまつて行はれる事を恐れてゐます。

實際の一例  
 圖案の一例  
 (全幼児二十一名)  
 二月二十二日のもの

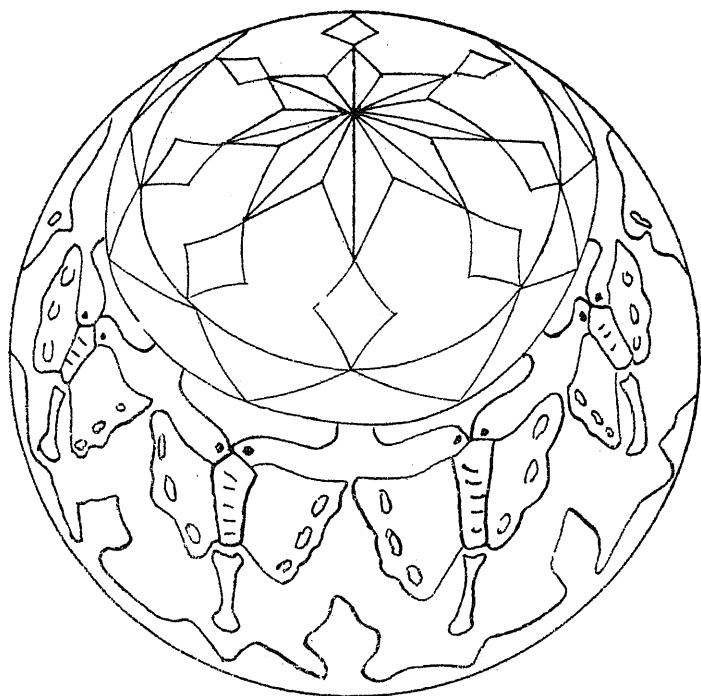
二月 梅



三月 櫻に蝶



四  
月  
蝶



六  
月  
桃



# 在園期間(二年間)に於ける幼兒身體の發育率

## 東京女子高等師範學校附屬幼稚園

											頭圍
											合比入園時に 加せると倍に 割合に幼児の 合せて百人
											一 二 三 四 五 六 七 八 九 一〇 一一 一二
											胸圍
											合比入園時に 加せると倍に 割合に幼児の 合せて百人
											一 二 三 四 五 六 七 八 九 一〇 一一 一二
											身長
											合比入園時に 加せると倍に 割合に幼児の 合せて百人
											一 二 三 四 五 六 七 八 九 一〇 一一 一二
											體
											合比入園時に 加せると倍に 割合に幼児の 合せて百人
											一 二 三 四 五 六 七 八 九 一〇 一一 一二
											重
											合比入園時に 加せると倍に 割合に幼児の 合せて百人
											一 二 三 四 五 六 七 八 九 一〇 一一 一二

一、此の調査は明治四十五年より本年までの統計にして男兒七十三名女兒六十九名につき行へるものなり。尙本園に於ては最初の體格検査を五月に最後の體格検査は三月に行ふを以て其期間は嚴密にいへば滿二ケ年に充たざるも便宜上之を在園期間の發育と見なせり。

二、「入園時に比して増加せる割合」の項に擧げたる數字は各幼兒の入園最初の體格検査の結果と在園最後の體格検査の結果との差を入園時を基準とせる百分比を以てあらはせるものにして例令ば身長に就て言へば發育率の最小なるものは入園の時の身長を百分の三を増加し發育率の最大なるものは入園時の身長を百分の十六を増加せるを示す。

三、「幼兒百人につきての割合」の項に擧げたる數

字は各發育率に該當する幼兒が幼兒中幾人あるかを百分比を以てあらはせるものにして(男右女左)

之を各上段の數字と對照する時は各發育率の多少を知るべし。例令ば身長に就て言へば男兒に於ても女兒に於ても最多き（換言すれば最普通なる）は發育率一一のものにして發育率一〇、

發育率九、發育率一二のものに亞ぐ。之に依つて見れば發育率九より一二位までの範圍を以て大體に於ける發育の普通標準と看做し得べし但身體の發育は大に過ぐると云ふべきものあらざれば此の普通標準以上のものは却つて喜ぶべき状態なれども若此普通標準以下に當る時は憂ふべしとなすべきか。而して教育上の一般的問題としては此の普通標準發育率を向上せしむることにある。

四、尙研究上の事實として注意すべきは身長と頭圍とに於ては其の普通標準發育率男女同一なる

も體重及び胸圍に於ては女兒の方大いなることなり。但是等の問題に就ては更に他の研究を期するものにして此の調査の斷定せんとする處にあらず。又各幼兒の發育率の相違範圍が體重に於て特に廣く身長胸圍に於ては比較的狭く頭圍に於ては最狭きことも興味ある點なり。

（大正七年三月調）

### 幼稚園講話會

東京女子高等師範學校附屬幼稚園にては通園幼兒保護者のために來る二十五日（土）午後一時半より東京女子高等師範學校正門内右手作樂館に於て講話會を開催する由、講演題目は左の如くにして一般傍聽者の出席を許可すべしとなり。（下足の用意なし）

幼稚園の話

東京女子高等師範學校教授

倉橋惣三

子供の衛生

東京帝國大學醫科大學教授

弘田長

# 幼稚園の自由

紹介子

自由の意味及びその限界に就ては現今の教育界殊に幼児教育界に於て非常な興味を以て研究せられて居ります。自由といふことゝ氣隨氣儘といふ

から見てゐるに過ぎないといふことが領解せらるるであります。

こととは全然異つた二つの事柄でありまして、これを一緒にして了ふやうな輕率家はもう絶無であるべき筈でありますが、事實は未だその域までは達してゐないのであります。自分で自分が自由にならぬやうでは本當の自由を領得してゐるものとは言はれないといふやうな最高の自由説は前の誤つた自由説に妨げられて却々一般には行き互らないやうであります。

若しも我々がこの自由の概念を實際の教育なり行爲なりに翻譯することが出来るならば自由といふことゝ訓練といふこととは同一問題を二つの面

自由を重んぜよといふやうな言説はもう耳が痛くなる程聞かされました。種々の標題の下にこの記事は雑誌に散見します。十九世紀の中頃から既にバツテイ・ヒル教授が自由活動の教育的價値を實驗して居るのでありますが誰も注意を拂ふものはありませんでした。しかしこの數年來幼児教育に於て大いに自由の重んぜらるべきことが説かれるやうになりました。而して教育者は幾度も演壇に立つて自由に就て論じました。けれども悲しいことには事實に於てはこの自由は少しも行はれては居りません。

自由遊びと言つてもいろいろの意味に用ひられ

て來てゐます、小學校のやうに一定時間の間勉強をしてその時間と時間との間に自由遊びの時間といふものを設けるのもあります。それから又課業の後に材料を用ひて行ふ自由遊びと言ふのもあります。これは先生の方に一定の方針があつて行つて居るのでありますから全然自由遊びと稱するわけには行かないわけであります。

それから自由遊びの形式はもう一つあります。

それは一週間に一度自由日といふやうなものを定めるのであります。而してこの日には先生の意志は少しも入らずに全く幼児等自身の選擇によつて遊びが行はれるのであります。亞米利加の某幼稚園ではこの方法を採用して少し形を變へて自由遊びを行つて居ります。それは斯うであります。一週に一度朝幼児達が園へ來ますと各自の机の上に某々の玩具や材料が載せてあります。幼児達はこの玩具や材料を以て自由に遊ぶのであります。もし其處に出て居る玩具で嫌らなければ戸棚を探し

て他の玩具や材料を引き出して來ても差支ないことにしてあるのであります。この自由遊びの時間は最初は一週に一度といふことに制限されて居りました。

尤もこの最後に舉げた方法は嚴密に言ふと自由遊びとは言はれないかも知れませんが、幼児の興味がその思ひのまゝの形式を、例へば遊びでも仕事でも又もつと能動的に本や繪や觀察やに引き入れられることでも何でもいゝ、好きな形式に耽つていゝ時間といった方が一番正しいわけであります。室の中は全然幼児達の支配に屬します、保母はホンの僅かばかり干渉もしますし、暗示もします。しかしそれは無論幼児の自由を妨げる性質のものでないことは言ふまでもありません。傍に附いてゐる保母はこの間に幼児の態度や周圍に對する仕方などを十分に觀察することが出來ます。



# 保 姆 の 務

大阪 本田幼稚園保母 中 川 優

人の務に何れが重い、何れが軽いと云ふ事は無いが、幼稚園保母の責任程重大な者は有るまい。

國務大臣は重く尊からう、軍人の務も重大である、而しながら未來に國務大臣たり、國家の干城たるべき第二の國民を養成する務が、誰の手に握られてあるかに思ひ至る時は、思はず襟を正し座を改めて、自己の責任の重大なるを自覺するのである。重く尊き保母の務よ。私は我等がこの重大なる使命を脊負つて立つ以上、如何なる決心と努力が必要なりやと云ふ前に、順序として我等の複雑なる地位と重き任務とを述べねばならぬ。

學校と家庭と醫師と心理學者の中間に立つて其等の人々から提出される所の種々なる要求！難しき要求、價值なき要求、學理上より照した合理的

な要求、要するに學理と家庭と醫師と心理學者は個々別々な、或は正反對な要求をせられるのである、かゝる地位に有つて其をよく處理し、中庸を取りつゝ、幼兒の爲めに最善の努力をするのが、我等幼稚園保母の務である。此様な複雑な地位に立ち、而も此の様な重大な責任を持つ我等は、如何にして其の責任を全うせんか。それは内容の充實を目的とし、確固たる根柢と不撓の努力と而して不屈の精神に待つより外はないのである。種々なる要求に對しては確固たる根柢が必要である。根柢なき保母は、フレーベル主義がよいと云はれれば其れに依り、他から誤れりと云はれ、ば其の方に傾き、モンテッソーリ主義が唱へらるれば、夫れに従ひ、浮草の水に漂ふやうに、種々なる人の

意見に依つて左右され、徒らに形式に流れて、内容の充實を缺くやうな事になるのである。若しこの様に基礎の定まらぬ保姆が有つたならば、それから幼児が受ける暗示は如何なるものであらうか意志の薄弱！其は第一に受ける暗示で、之に依つて幼児は意志の強固を缺き、自信力のない、依頼心の強い國民とならう。夫程にならずとも、少くも自發活動の無い、非現代的の人になりはしないかと危ぶまれる。大切な幼児を幼稚園に託して非現代的の人物を作ること要求する親が何處に有らうか？其れを思へば我等は確たる自信を持ち、その方針を定めつゝ、各方面よりの要求を考慮しそれを取捨し、行ふに不撓の努力を以てしなければならぬのである。確固たる根柢に依りて方針を定め、其れを行ふには動かざる決心が必要である。世には感情に走るが爲に理性を失ひ、他人の行ふ事を兎角批評したがる人も有るかも知れぬが、其様な事に出合つて自己の決心を鈍らすやうな事では、この重い責任は決して全うせられぬのである。幸ひにして當大阪市では心理學、生理學等に對しては斯道の大家の講演が屢々催され、我等は之に

依つて既に確固たる根柢を得たのであるから、今我等は取るべき方針を定めて、幼児の保育に従事すべきである。我等の取るべき方針とは如何？

それはフレーベル主義の復活でもなければ、非現代的の人物の養成でもなく、又モンテッソーリ崇拜主義でもない。幼稚園は總ての教育の基礎であつて、幼稚園幼児は、この雄大な自然の懷に抱かれて月に花に、雨に雪にその潜んだ知的本能を現すのであるから、我等はその發芽を看過せざることに留意し、適當に助長せしめ、身體の養護を専らにし、強健なる身體の基礎を築き、品性を陶冶することに努力すべきである。純なる幼児の保育は徒らに形式に流れて出來得べきではない。宜しくこの自然に従つてなし、春の霞に野山の包まれるが如く幼児も自然の御手に包まれて、のんびりと、その心身を發達せしむるやうに保育すべきである。繰り返して云ふ、我等は内容の充實を以て形式の打破に代へ、固き決心と、撓まぬ努力と、而して絶えざる修養とを以て、この重く尊き任務を全うせんことを。以上

# 小學校に現はれた幼稚園の成績

新潟縣新發田幼稚園主 市 島 貞 三

新發田の町は戸數三千五百、人口一萬八千を有し、下越後に於ける一番の市街で、軍隊を始め、各官衙の所在地であります。他より轉任して參られた武官や文官の方が申さるるには、此町は幼稚園がなく困る、前任地で幼稚園へ出して居つた子供を連れて來て見ると氣の毒でならぬ。兄さん姉さんも學校へ行くのに私ばかり行く處がないのかと申すとのことであります。

私はこのことを屢々耳にし、世の進運に伴ひ幼稚園は此土地にも必要であると感しました。そこで同志の方々と共に設立に努力いたしました、時恰も日韓併合の年なる明治四十三年でありましたから、それを記念として開園した次第であります。處が父兄方から大に満足を得、逐年入園志望者が増加しました。されどまた一面には絶対に幼稚

園反對の方もあり、疑を以て居らるゝ方もあり、私は學者の説や先輩の實驗談などを受賣りして説明して居ましたものゝ、其實は實際に於て如何なる結果を示すものなるかを氣遣ひまして、私の幼稚園を終へて入學して居る町の小學校につき、折節狀況を聞き、先づ成績は優るとも劣ることはないとの信念丈は得て居りましたが、具體的に調査する迄に至らなかつたのです。

然るに今度漸く機會が來ました。即ち第一回の終了生が尋常六學年に進みずつと一學年迄續き三學期も経過しましたことですから、小學校長を煩はして左の統計を得ました。

私の幼稚園は家庭に上下を通じ、社會の各階級の集合でありますから一般的であります。始めより今日に至る迄、其狀態は少しも變りませぬ。強

ひて申さば、極々貧困者の幼兒が缺けて居る位のこととあります。故に表中、幼稚園を経たる兒童と經ない兒童とは、大體差異なきものと信じて頂きたいのであります。

世間では、幼稚園を経たる兒童の成績は、小學校に入學當時はよろしいが、高學年に進むと共にわるくなりはいないかと疑はるゝ方もありますが第二表に依りて見れば、其形跡はないのであります。早熟を禁物として居るのですから素よりあらう筈がないと考へられます。

私は此統計を得て、一と安堵いたしました。是迄の保育方法に大過がなかつた、職員一同が精神的に努力いたした效があつた、併し如斯著しき效果を得ました原因は何でありませうかといふに、いろ／＼原因もありませうが、私は父兄が兒童に對し注意せらるゝのは幼稚園時代に於て最も深いと思ひます。此時に於て、幼稚園の保育と相待つて家庭に於ても自然一段と保育に努めうらるゝ關係が生ずると信じます。これが即ち最大原因をなしたものと考へられるのであります。

# 第一表

種別	學業				操行			
	總數		比百分		總數		比百分	
	同	幼稚園を経る者	同	幼稚園を経る者	同	幼稚園を経る者	同	幼稚園を経る者
甲	一五二	一五九	四八五	一、〇六〇	三三	一、三三	三三	一、三三
乙	一九	一九	五、九	四、三	二六	五、七	二六	五、七
丙	二九二	二九二	五、一	〇、三	一五、六	一、七	一五、六	一、七
丁	三	三	一、〇	〇、三	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇

## 第二表

種別	總數	甲	乙	丙	丁
一學年	七	三	三	一	〇
二學年	六	三	三	〇	〇
三學年	七	三	二	二	〇
四學年	五	二	二	一	〇
五學年	五	三	三	〇	〇
六學年	四	二	二	〇	〇
計	三七	一九	一九	一	一

一右表は新發町三つの小學校の尋常科生各學年を合せたるものにして大正六年十二月末の考査に基きたるものなり其人員幼稚園を経た者三百七十八人、同經ざる者千八百六十九人とす。

# 新しい試み

## 紹介子

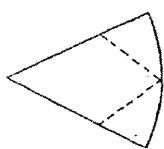
亞米利加の幼稚園で行はれてゐる新しい遊び方  
二つ三つを御紹介いたします。近着の「ザ・キ  
ンダーガルテン・アンド・ファースト・グレード」  
から抜萃したものです。

### ○雛菊の飾り

亞米利加の子供達は、雛菊を大變に好みます、  
尤も雛菊はあちらでは「ザ・キンダーガルテン・アンド・ファースト・グレード幼稚園の花」と稱される  
程で何處の幼稚園にも大抵は栽培せられてゐるの  
であります。雛菊は言ふまでもなくあつさりとし  
た可憐な花であります。

亞米利加ではフレイベル誕生記念日には幼稚園  
の子供達は紙で拵へた雛菊を以て幼稚園の園舎を  
綺麗に飾り立てます。この雛菊の造り方は至つて

簡單です。豎に溝の入つてゐる西洋紙を用ゐれば  
一番上等ですが、それが無かつたら普通の西洋紙  
でもいゝでせう、丸く切抜いて、直徑を折目とし  
て二つに折ります、而してこの半圓を更に四半圓  
に折り、更に又この四半圓を八半圓に折ると上圖  
のやうになります、それからこれを圖の點線に沿  
うて切抜きます、而してこれをひろ  
げますと雛菊の形が出来上ります、  
最後に黄色い色鉛筆で花心を塗り上  
げるといよく雛菊が出来上るわけ  
です、この時に最初用ゐる紙を堅溝の紙にします  
と雛菊の瓣が本當のに近く出来て誠に具合がいゝ  
のであります。



この出来上つた雛菊を澤山集めて糸に貫いて室

内に吊るのも面白いでせう、壁や羽目に波線若しくはジグザグを描いてピンでとめるのもいいでせう、或ひは又黑板に貼り付けて花の下に莖や葉を白墨で描き足すのも愉快な仕事として子供達に喜ばれるでせう。この雛菊の作り方などは或ひは日本人の方が本職かも知れず、日本の幼稚園では斯ういふ遊びを仕盡してゐるかも知れませんがこの出来上つた造花を如何に有効に利用して子供達を楽しましむべきかといふことはまだいろいろ工夫すべき餘地があるだらうと思ひます。

### ○室内播種

外國では復活祭といつて三月二十一日以後の満月に次ぐ第一日曜日に耶蘇の復活を記念するためのお祭りを行います。このお祭には飾物として又進物用としてイースター・エッグと言つて赤く染めた鶏卵を澤山に用ゐます。米國の幼稚園ではこの鶏卵の殻を利用しやうとするのです。それには

復活祭が終わる頃になると保姆はイースター・エッグを集め始めます、これは一方の端だけが破れてゐるだけで全體としては一寸見には完全と見えるやうなのを選つて集めるのです。滅茶々に碎けてゐる殻は何うにも仕様がありません。さてこの卵殻が集まると各園児の名が一々の卵殻の上に記されます。

二人の幼児が桶とスベードを携へて遊園に行き土を掘つて來ます。室内では幼児達が丸く列んで真中の床の上には大きな紙がひろげてあります、而して向日葵の種子がその直ぐ傍に置いてあります、遊園へ行つて土を桶に入れて持ち歸つた二人の幼児はその土を紙の上に撒きます。幼児達はめいめい自分の名の記してある卵殻をもつて來て土を取り入れます、而して向日葵の種子をこの卵殻の中に蒔きます。卵殻の中に植ゑるのですから種子を深く下しすぎるといふ憂ひは全くないわけがあります。種子蒔きが終つて了ふとこれらの卵殻

は窓の傍に置いてある砂の箱の上に列べて置きま  
す、而して時々水を灌ぎます。

向日葵の芽が出た時幼児達はどんなに喜ぶで  
う。向日葵が少し大きくなると各幼児はこれを自  
宅へ持ち歸ります。何時までも室内へ置けるもの  
ではありませんし、又植ゑ替へてやる必要もある  
からであります。

### ○繪入りのお話

この繪入りのお話は亞米利加に於てその國語即  
ち英語を、ホンの少ししか理解しない外國の幼兒  
を收容する幼稚園で用ゐる始めたのであります。是  
等の幼兒にお話の妙味を十分味はせるためには耳  
ばかりでなく眼にも訴へることが必要であります  
その結果は無論よろしく幼兒の興味と愉快を増さ  
しむると共に想像力の働きを旺盛ならしめ語彙を  
富ましむる便益があります。畫學用紙か何かを臺  
紙にして山や子供や木の形を切り抜きます。而し

て保姆はお話をする時にこれらの切抜いた舞臺道  
具をうまく配列し、そこに話の主人公を活躍させ  
るのであります。

### ○第三回兒童教養講習會

期日と時間 八月五日より十日迄毎日午前八時よ  
り正午迄

申込期限 七月末日

場 所 東京府下目黒兒童研究所講堂

講習科目及講師

(いろは順)

國民道德

文學博士

井上哲次郎

學校と家庭

文學博士

鳩山春子

小兒病と家庭看護法

醫學博士

太田孝之

兒童の訓練

文部省學官

野田義夫

兒童と色彩

文學士

黒田明信

教育的測定

ドクトル  
文學士

久保良英

普通教育に於ける理科と家事

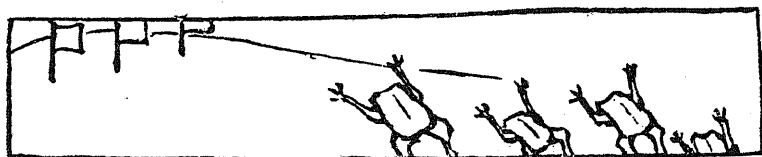
女教師教授

近藤耕藏

兒童の變質

醫學博士

三宅鑑一



## ピョン太郎

東京女子高等師範學校附屬幼稚園研究部

此のお伽噺は全然創作にかゝるものではありません。いろ／＼のお話を集めて改作したものであります。

### (一)

お池の中の蛙のおうちに「おたまじやくし」が生れました。皆で大變に悦んで可愛がつて育てました。眞黒な小さな蝌蚪で足も何もありません。

たい長い尾があつて水の中をチョロ／＼泳いでゐます。お母さんの蛙は毎日お池から出で方々をピョン／＼と跳んで歩きます。そして歸つて來てはお池の中へチャブーンととび込んでスースースーと泳ぎます。そして外で見たいろ／＼の面白い事を話して聞かせます。蝌蚪は自分も池の外に出てお母さんのやうにピョン／＼とはねて見度くてたまりません。

『お母さん、私も外へ行つてようござんすか』

『いゝえ／＼、お前はまだなか／＼出られません、お母さんのやうに足がちやんと四つ出来なければだめ、ホーラ一ツ二ツ三ツ四ツあるでせう、お前も今にかう云ふ風になりますから其迄お池で金魚さんや目高さんと遊んでお出でなさい、又お母さんが外からおみやげを持つて歸つてあげますからね』





『えゝ』

それから蝌蚪は毎日々々お池の中で元氣よく遊んで居ましたが或る朝、

『お母さんこんなものが出て來ましたなあに』

『あゝそれは後の足ですよ。よかつた事足が出ましたね』

『あしなの、嬉しい、ぢやもう外に出てみよう御座いますか』

『いゝえまだ前の足が二つ出なければ』

『まあそう！』

それから又おたまじやくしは毎日お池の中で遊んで居りました。金魚が

『おたまじやくしさん、それどうしたの、なあに』

『これね後の足なんですよ、もう直ぐ前の足も出ますつて』

『まあいゝのね、前の足が出ればもうお池の外へも出られるのでせう』

『えゝ早く出て見度くてたまりません、お母さんのやうにビヨン／＼ととんだらどんなに面白いでせう』

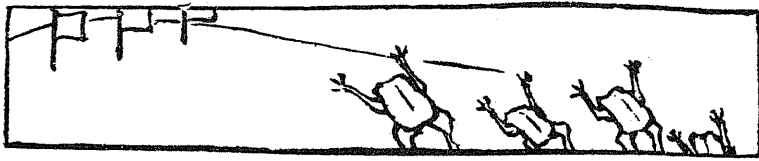
『ほんとにね』

暫らくしてからおたまじやくしが

『お母さん／＼これなあに……こゝがこんなに高くなりましたよ』

『おゝそれは今に前足が出るのですよ』

『あゝ嬉しいこれが前足になるのですか、あゝ嬉しい、そしたら外にビヨン／＼と飛



んでゆかれる、前足早く出てくれ〜』

前足がだん〜のびて前と後とちやんと四つ揃ひました。

『お母さん一つ二つ三つ四つ、足が四つになりました、もうとべますか』

『えい、けふは母さんと一緒にとんで見ませう、さあいらつしやい』

『嬉しいな〜』

『さあようござんすかビヨン』

『ビヨン』

『そうです〜、も一つビヨン』

『ビヨン』

『ビヨン、ビヨン』

『ビヨン、ビヨン』

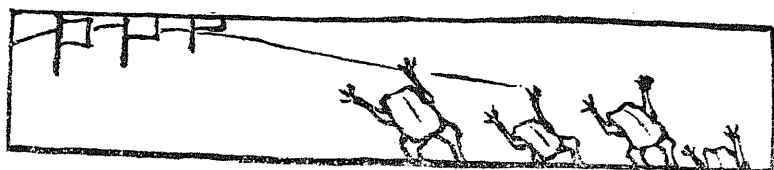
『えい、お上手〜今度は見て居ますから一人で飛んで御覧なさい』

『ビヨン〜ビヨンビヨン……オットあぶないビヨン』

『さうです〜よく飛べましたね、ちや又明日にしませう』

『えい、面白いのね、お母さん』

『えい、おもしろいでせうそれから又だん〜遠く迄とばれるやうになります、毎日お稽古しませうね、それから上手になるやうにビヨン太郎さんとお名前をつけて上げませう』



『ありがたう「ビヨン太郎さん」いゝお名前だなあ、ビヨン太郎さん』

ビヨン太郎は知らんで「ビヨン太郎」「ビヨン太郎」と云ひながらビヨン／＼ととんでお家へかへりましたので大變に上手になりました。そして遠い所まで飛んでもちつとも疲れなくなりました。

(二)

或る朝ビヨン太郎のお母さんが「蛙の新聞」を見てゐました。

『おや／＼ビヨン太郎さんいゝ事がありますよ』

『お母様、なあに』

『あのね、今度の日曜日に向ふの野原で蛙の運動會がありますと』

『さう、お母様、僕もつれて行つて頂戴』

『えゝ、行きませう、運動會はそれは／＼おもしろいのですよ、かけつこをしたり、高飛をしたり、綱引をしたり、まだ色々の事をします』

『僕駄つこに這入つてもようございますか』

『えゝ、ようございますとも』

『嬉しいな／＼』

それからビヨン太郎は毎日々々朝から晩までビヨン／＼と駄つこの稽古を一生懸命にしました、そして大變よく駄けられるやうになりました。とう／＼運動會の前の晩になりました、いよ／＼あしたは運動會です、ビヨン太郎は嬉しくて／＼たまりません、



寝ようと思つても寝られませんが、又してもビョン／＼と駈つこの稽古をしてゐます、お母様はおいしさうなお辨當を作りながら、

『ビョン太郎さん、嬉しいでせう、あしたはしつかりおやりなさい』

『え、僕もう嬉しくて／＼仕様がありません』

『ぢや、今夜は早く寝ませう』

お母様もビョン太郎さんも、ぐつすり眠りました。

朝になると上天氣！ ビョン太郎ははね起きました。

『やあ、嬉しいな／＼運動會』

それからすつかりお母様にお支度をして戴きました。赤い運動シャツを着て赤い運動帽子をかぶつて水筒をさげて、お辨當をしよつてしつかりお支度が出来ました。と、

『いつて参ります』

『いつていらしやいませ』

お母様とビョン太郎と二人でビョンビョンと出かけました。

だん／＼會場に近づいて参りますと樂隊の音が聞えます。

『ブーカブーカドン／＼ドン／＼』

ビョン太郎はもうぢつとしては居られませんが、ビョン／＼とかけ出しました。旗もきれいに飾つてあります。見物人もぞろ／＼参ります。這入つて見るともうちゃんと用意がしてあります。旗、毬、綱、輪、杓子皆揃つて居ます。其の内に花火が、トーンパー



ン  
パ  
チ  
く  
く  
く  
く

『そら運動會が始まつた。』

一番はじめに皆の體操です、雨蛙、土蛙、との様蛙、青蛙、いぼ蛙、大きいのが小さいのやたーくさん、それから、がま蛙が號令をかけて居ます。

『右の手を挙げ—挙げ！  
下せ、一、二、一、二、一、二、やめ！』

『左の手を挙げ——挙げ！  
下せ、一、二、一、二、一、二、やめ！』

『後脚で立て！立て！  
歩け！歩け！一、二、一、二、一やめ、坐れ！』

『跳躍運動  
始め！  
一、二、三、  
一、二、三、』

『ピョン、ピョン、ピョン、ピョン、ピョン』

『やめ！ 右向け右！ 前へ進め、駈け足、一、二、一、二……』

其の次は綱引きです、赤と白とに別れてしつかり綱につかまりました。

『用意！』  
『始め！』

『オー、エス、オー、エス……』

『白勝つやうに、赤勝つやうに』

『オー、エス、オーエス……』

『ピリピリピリ——赤萬歳——』

『萬歲！ 萬歲！』

『右向け右！  
駈け足！一、二、一、二……』



こん度は愈駈つこです、皆ラインの上に並びました。ビヨン太郎は端から二番目に並びました、體をのり出して。

### 『用意、ドン』

『ビヨン、ビヨン、ビヨン、ビヨン、ビヨン、ビヨン』

皆一生懸命に駈け出しました、ビヨン太郎も必死です、皆も中々早いのでビヨン太郎は目をまん丸くして、口を結んで、汗びつしよりになつて、ビヨン／＼／＼／＼と急ぎました。一匹抜き、二匹ぬき、三匹抜いてうんと力を入れて四ひき目を抜きもう一匹だと云ふのでビヨン太郎ありつたけの力を出して駈けました。とう／＼五匹目をぬいて第一着になりました。

『ビヨン太郎君萬歳！萬歳！萬歳！』

ビヨン太郎は嬉くて／＼お母さんのところへとんで歸りました。お母さんも大よろこびで大變褒めて下さいました。

それからビヨン太郎はおいしいお辨當を戴いて澤山運動會を見てかへりました。そしてお内の方にけふの面白かつたお話を上げました。

### (三)

或る日ビヨン太郎は

『お母様、僕これから向ふのお池へお魚釣りにいつてもようございますか』

『えい、いつていらつしやい』



それからお母様は大きな三角のおむすびを三つ拵へて下さいました、そしてちゃんと風呂敷に包むで、お辨當に作つて下さいました。

ビョン太郎は赤い運動シャツを着て赤い運動帽子を被つてお辨當を腰にさげて物置から出して來た釣竿を擔いで籠を持つて、

『行つて參ります』

『いつていらつしやい、よく氣をおつけなさい』

『え、けふはお池中の魚をみんな釣つてやらう、鯉も鮒も目高もみんな釣つてやらう』  
廣い／＼お池へまゐりました、小さな波が銀色に光つてゐます、緑色の美しい蓮の葉がまゐる／＼浮んで居ます、お魚が時々ビョイ／＼と水の上にはね上つて居ます。

『居る／＼、どれ釣りませう』

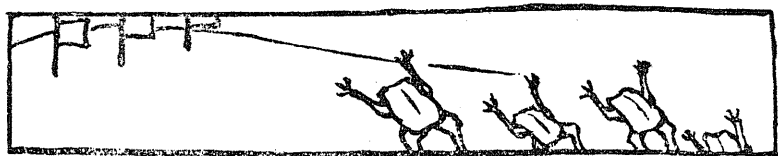
釣のさきに餌をつけてボイと水の中に投り込み、石の上に腰をかけてちつと待つて居ます、一向につれませんが、いくら待つてもお魚がかゝりません。

『かゝらないなあ、よし、ちやあもつと真中の方へいこう』

ビョン太郎は池の中へどぶんと飛び込んでスースースーと泳いでいつて蓮の葉の上になりました。

『こゝならよく釣れるにちがひない、どれ釣つて見ませう』

又餌をつけてボイと水の中に投り込みちつと待つてゐます、暫くするとビク／＼と糸を引きます。



『そら、來た』

そつと上げて見ます、可愛い、鰯が釣れました。

『可愛い、鰯だ、鰯さんよく來ましたね』

はりから鰯をはづして籠の中へ入れ、又餌をつけてボイと投り込み、ちつと待つて居ます、暫くするとビクリ／＼と糸を引きます。

『そら來た』

そつと上げて見ます。

『おや／＼今度は鯉の子、鯉さんよく來ましたね、君はまだ小さいね』

はりからはづして又籠に入れました、何尾も何尾も釣つて居る中に、

『ドーン』

『おやもうドンだ、どれおむすびを戴きませう』

蓮の葉のお舟の中でお辨當を開きました。そして籠の中の鯉や鰯をのぞき込みながら、おいしそくに食べてしまひました。それから又釣り始めました。

『おや！今度は何だらう、こんな長い魚がつれた、あゝ鰻か、随分長いなあ』

はりからはづして籠に入れました、又餌をつけて、ボイと投り込みました、投り込んだと思ふとすぐビクリ／＼と引きます。

『おや／＼何だか大變強く引くぞ、はてな、おや、これは重い、ドッコイショ、おゝ中々重い』





やつとの事でつり上げましたら大きな〜鯉です。

『やあ大きいぞ〜、こんな大きいのは今迄釣つた事がない、籠に入るかしらん、嬉しいな〜、おやこの鯉が何か云つて居る泣いて居る、何？子供の鯉をかへして呉れ？ちやさつきの小さな鯉がお前のうちの子供なの、それをかへして呉れ？』

ビヨン太郎は暫く大きい鯉と小さい鯉を變りばんこに見て居ました。

『よしかへして上げやう』

小さな鯉をつかみ出して大きな鯉と一緒に池の中へ入れてやりました。

大いのと小さいのとは嬉しさうに鰭を動かして、元氣よく遠く〜の方迄泳いでかへりました。ビヨン太郎は見えて居ましたが、

『序にお前達もみんなかへして上げませう、おうちへおかへりなさい』

一尾づゝつまみ出して、

『ホーラお歸り、さようなら』

『ホーラお前もお歸り、さようなら』

『ホーラお前もおかへり、さようなら』

『ホーラらお前もお歸り、さようなら』

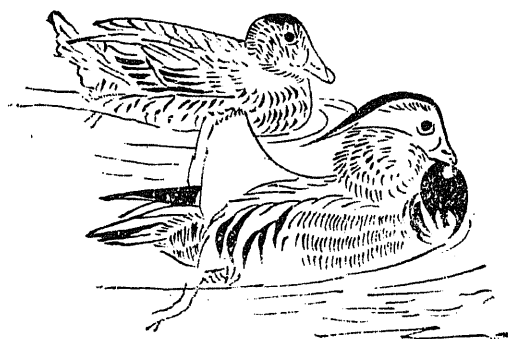
すつかり池の中にかへしてやりました、そしてち〜ツと泳いで行くのを見て居ました。

『あゝおもしろかつた、僕もかへりませう』

ビヨン太郎は、からつぽになつた籠をぶら〜と釣竿の先にぶら下げて、大きな聲でう



たひながら歸りました。  
『夕焼、こやけ、あした天氣に、なあれ!』



## 會 告

○會費御拂ひ込みの節は名前は初め御入會の時の御名前へと御同一になし下され度く、假令ば初め幼稚園名にて御入會、後個人の御名前へにて會費御拂込み等のことなき様必ず願上候。整理上甚だ煩雜致し候につき右特に御注意願候

○會費未納は會計整理上甚だ困難致候に付確實に御納付下され度向後萬一御不納久しきに亘り候場合は乍遺憾雜誌發送を停止可致候間左様御含み置願候

○會員諸君にて御轉居等の節は至急御一報願上候

○萬一本誌不著等のこと有之候折は直に御一報煩し度候

### 本誌定價

一冊 郵税共金拾參錢 六冊前金郵税共七拾貳錢  
拾二冊同金壹圓四拾四錢 郵券代用 一割増

### 購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に送本致します。(振替口座東京一七二六六番)

### 本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます

庶務及會計に關する御用務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園内フレイベル會事務所宛

本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下代々木山谷一二四倉橋惣三宛

大正七年五月十五日印刷納本  
大正七年五月十五日發行

東京府豐多摩郡代々幡村大字代々木山谷一二四  
編輯兼發行者 倉 橋 惣 三

印刷者 東京市本所區番場町四番地 功  
印刷所 東京市本所區番場町四番地 岡

發行所 フレイベル會  
東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

葛原滋先生共編

完結

一月一日  
 双遊  
 梅に  
 雪に  
 紀元  
 節  
 犬と  
 猫  
 鵲  
 活動  
 積木  
 眞  
 ス  
 ト  
 ー  
 ブ

電 話 京 橋  
二 一 六 三 番  
振 替 東 京  
二 八 〇 九 番

凸版印刷株式會社本所分工場

明治三十四年一月廿八日第三種郵便物認可(毎月一回一日發行)